

「町田市民文学館の施設運営の点検・評価について（答申）」について

2018年7月24日付けで、町田市教育委員会の附属機関である町田市民文学館運営協議会に「町田市民文学館の施設運営の点検・評価」について諮問し、2020年5月28日に答申をいただきました。概要は、以下のとおりです。

<諮問内容>

「町田市民文学館の施設運営の点検・評価について」

<答申の構成及び概要>

1 事業の見直しに向けた取組について (2～6 頁)

「町田市民文学館のあり方見直し方針」の5つの指針

①シティプロモーションの推進②若い世代を対象とした事業の充実③文学の概念の拡大と柔軟で質の高い文学館を目指した事業展開④市民協働による事業の取り組みと情報発信の検討⑤市民の自己実現を支える事業の展開について
に沿って評価をいただきました。

2 施設管理に関する取組について (6 頁)

施設管理に関する取組について評価をいただきました。

3 展示事業について (7～10 頁)

2018年度から行われた7つの展覧会についての評価をいただきました。

4 資料 (13～14 頁)

第4期町田市民文学館運営協議会の委員は8名、審議は計7回行いました。

「町田市民文学館の施設運営の点検・評価について(答申)」

第4期町田市民文学館運営協議会



2020年5月28日

町田市教育委員会
教育長 坂本 修一 様

町田市民文学館運営協議会
会長 深沢 眞二

町田市民文学館の施設運営の点検・評価について（答申）

町田市民文学館運営協議会は、2018年7月24日付け18町教図第132号にて、「町田市民文学館の施設運営の点検・評価について」の諮問を受けました。このたび、検討した結果を別紙のとおりまとめましたので、答申いたします。

目次

はじめに	2
1.事業の見直しに向けた取組みについて	2
2.施設管理に関する取組みについて	6
3.展示事業について	7
おわりに	11

資料編

(1)諮問文	13
(2)第4期町田市民文学館運営協議会 委員名簿	14
(3)第4期町田市民文学館運営協議会 審議経過	15

はじめに

町田市民文学館ことばらんどは、2018年10月に町田市教育委員会生涯学習審議会に「今後の町田市民文学館のあり方について」を諮問し、「1.町田市民文学館の存在意義」、「2.町田市民文学館の存廃」、「3.適正な管理運営手法」についての答申を受けた。これにより、町田市教育委員会で2019年2月「町田市民文学館のあり方見直し方針」を定め、これまでの市民の文化活動の拠点としての役割に加えて、今後は、まちの魅力を高める拠点としての役割を担うことを目指して、日々事業に取り組んでいる。

この度、町田市民文学館運営協議会では、町田市教育委員会からの諮問に基づき、町田市民文学館の施設運営の点検・評価について審議を重ね、以下のとおり答申としてまとめた。

- 1.事業の見直しに向けた取組みについて
- 2.施設管理に関する取組みについて
- 3.展示事業について

本運営協議会は、2019年度に町田市教育委員会生涯学習審議会が町田市民文学館の存続の方向を打ち出したことを歓迎する。文学館の役割は、町田市にゆかりのある作家や文学関係者の顕彰といった開館当初の認識から大きくそして多様に発展し、「ことば」を通じた表現はもちろんのこと美術や映像表現や身体表現とも連携して、市民のいわば「よりよく生きる」ための総合的な力を下から支えることに求められるようになってきている。そこには「ことばの力」の獲得について、幼児から高齢者まで全ての年齢層に対してサポートする役割も含まれていよう。要するに文学館は、過去の文学のみを扱う機関から、地域社会の知性全般を保証する機関に進化してきたのである。もちろん、文学館内での、各事業についてさまざまな角度からの絶えざる検証と、個々の課題への適切な対応が不可欠なことではあるが、今後、そのような新たな文学館の意義が町田市民をはじめとする関係者に認知され、支持されることを願ってやまない。

1. 事業の見直しに向けた取組について

町田市民文学館では、「市民の文化活動の拠点」「まちの魅力を高める拠点」と

なることを目指し、これらを実現するため「町田市民文学館のあり方見直し方針」の5つの指針、

- ① シティプロモーションの推進
- ② 若い世代を対象とした事業の充実
- ③ 文学の概念の拡大と柔軟で質の高い文学館を目指した事業展開
- ④ 市民協働による事業の取り組みと情報発信の検討
- ⑤ 市民の自己実現を支える事業の展開

に沿って事業を実施している。

2018年には文学館のイメージキャラクターによるシティプロモーションを実施し、2019年に初めて10代・20代を対象とした展覧会、大日本タイポ組合理「文ッ字ーいつもの文字もちよッと違ッて見えるかも」を開催し成果を得るなど、新たな試みを実施している。新たな試みの中には必ずしも企画の意図を十分に達成したものばかりではないが、これらの試行は今後の町田市民文学館らしい事業のモデル構築のためには重要なものであるととらえている。今後も積極的に新たな事業にチャレンジし、それらを継続的に展開できるような仕組み作りにも尽力されたい。

以下、5つの指針の内容について述べる。

① シティプロモーションの推進

町田市民文学館では2011年度から広報に力を入れ、各事業の情報や魅力を発信し続け、一定の成果をあげてきた。さらに2018年度以降は「見直し方針」に則り、文学館への興味関心を喚起するための様々な事業を実施している。2018年度からはインターネットミュージアム主催の「ミュージアムキャラクターアワード」に文学館イメージキャラクター「ことくん」「らんちゃん」をエントリーして全国へのPRを図った。翌2019年度からはFMさがみの番組に学芸員が出演し「まちだ文学の道」と題して文学館の活動や文学の魅力を発信している。開館以来地域住民とともに実施している「文学館まつり」では、2018年度から歩行者天国での模擬店、野外ライブの本格的実施により地域活性化への協力を図り、2019年度の白洲正子展では国際版画美術館との相互割引制度を初めて実施して文化ゾーンを構成する2館の連携を試みている。

今後も、シティプロモーションや広報に取り組む際、地域や関係機関と一層の連携を図ることが重要である。また、ボランティアや文学館ファンの方をお願いしてポスター掲示やSNS情報発信に協力いただくなど、人と人とのつながりを大切にするよう心掛けてほしい。

加えて、町田市が「文化・芸術」をどのようにプロモートするのか、関係機関とよく話し合い、町田市が進めるICT化や文化・芸術のイメージ戦略に文学館も沿って事業展開することが重要である。原町田は文学館、国際版画美術館、中央図書館のある文化ゾーンであり、現在、町田市が検討中の「芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクト」の中で、芹ヶ谷公園の入り口に位置する文学館が、まちの魅力を高める拠点となるような可能性を検討されたい。

② 子ども向け事業及び中高生から20歳代の若い世代を対象とした事業の充実

2006年度の開館以来、夏季には原則として絵本や児童文学を対象にした展覧会を実施してきた。合わせて教育普及事業でも幼児・小学生を対象にしたイベントを開催してきた。2019年春に初めて、10代・20代を対象に、大日本タイポ組合展「文ッ字ーいつもの文字もちよッと違って見えるかも」、「文ッ字フリマ」を開催し、狙い通り10代・20代の来館者が増えた。教育普及事業として、2018年度には小学生から20代を対象とした実作講座「60分で書ける新聞の見出しから作る短編小説教室」、中学生対象の「現代歌人から学ぶ短歌講座」、20代・30代を対象とした「残響を聴くー町田康が語る朔太郎と中也のことば」、2019年度には高校生・大学生を対象とした「教科書には載っていない古典文学ウラ話」を新たに実施した。これらの中には、実際には若い世代を集められなかった事業もあった。企画の見直しと、実施結果の検証が必要である。

こうした、中高生・20代を対象とした事業の試みは、まだ多くの市民に浸透しておらず、まずは情報発信が必要であろう。少人数の事業も、過程や成果をSNSや冊子、Youtubeなどを駆使して纏めることができれば、その過程や成果を宣伝材料として生かせるのではないか。

また、国際版画美術館の「小中学校作品展」は、美術の普及と施設のPRに大きく貢献している事業である。文学館もこれに倣い、文学に関する同様の事業を行うことで、町田の子どもたちに文学に親しんでもらうことが可能となるのではないか。今後、文学館の事業を教育現場で普及することについても検討されたい。

③ 「文学」の概念の拡大、「柔軟で質の高い文学館」を目指した事業展開

「みつはしちかこ展－恋と、まんがと、青春と」で漫画を、大日本タイポ組合展「文ッ字－いつもの文字もちょッと違って見えるかも」でタイポグラフィを取り上げ、また、生涯学習総務課文化財係による縄文土器の展覧会を開催するなど、これまでの展覧会とは異なる新しい取り組みを実施した。また、2019年秋季・冬季・2020年春季は、東京2020オリンピック・パラリンピックに関連したテーマの企画展を実施している。絵本原画展や文学と美術を学際的に扱った展覧会、漫画家の展覧会などヴィジュアル性の高い展覧会によって集客力を高めることができている。

教育普及事業では、小説、短歌等の韻文、古典等「文学」に関する講座・講演会のほか、翻訳や言葉に関する講座・講演会も実施してきた。2019年度は「ワークショップで学ぶ言葉と身体のコミュニケーション術」でコミュニケーションを、「江戸の盛り場と文学」では江戸文化をとりあげたほか、参加しやすいワークショップ形式を子ども対象事業に多く取り入れていることも評価できる。

今の時代、幅広い世代にまんべんなく受ける企画は存在しない。事業の対象者をしっかりと絞って実施することが必要である。今後も、観覧者・受講者の興味関心の多様化に応じ、関係機関と連携しながら、さらなる「文学」ジャンルの拡大と内容の充実を図りたい。

④ 市民協働による事業の取組、情報発信の検討

2007年から開館日の10月27日の前後の日曜日に「文学館まつり」を開催してきている。年々来場者も増加し、2016年からは原町田四丁目第二町会、文学館通り商店会、原町田四丁目第二地区まちづくりの会との共催で「文学館まつり実行委員会」として実施している。2019年度は、「町田時代まつり」「生涯学習センターまつり」「ゆうゆう版画まつり」と同日に開催し互いにPRを行った。また、2018年度には市民サークルとともに「まちカフェ」に出展、2019年度には町田パリオ主催「キッズフェスティバル」に出展しワークショップを実施した。情報発信では、参加アーティストやインフルエンサーなど発信力のある人たちと連携しtwitterなどで情報発信を行っている。

「文学館まつり」については、同日開催とした2019年度は、前年と比較して参加者が減少しており、同日開催にする場合は情報発信を一本化するなど、他の組織との効果的な連携を模索しなければならない。今後も、地域と連携した事業を一層充実、継続されたい。

⑤ 市民の自己実現を支える事業の展開

市民の文学活動、研究活動を支援する市民研究員制度のほか、学生を支援するアカデミックパスや講座・講演会の受講生がサークルを立ち上げる際の支援などを実施している。しかし、近年はPR不足もあって多様なニーズに応えることができておらず、十分な成果をあげるには至っていない。

「市民の」という言葉が強すぎて、例えば町田にある学校の生徒・学生にはほとんど来てほしいのに、文学館は遠い施設という印象がある。生徒・学生との繋がりをつくる試みや、多世代・多分野のアーティストや作家が交流できる機会づくりなども検討されたい。

2. 施設管理に関する取組について

2019年2月に決定した「町田市民文学館のあり方見直し方針」の中で、「③ 効率的・効果的な運営手法の検討」について、一部業務委託、単独施設での指定管理制度の導入、複数施設での指定管理制度の導入が検討され、メリット・デメリットを比較検討した結果、複数施設での指定管理制度の導入が最も効果的であるとされている。複数施設の候補である町田市立国際版画美術館、(仮称)国際工芸美術館は、「芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクト」の中心施設に位置づけられており、その運営は官民連携で行うことが検討されている。現在のところ町田市民文学館は「芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクト」の中に含まれていないが、庁内での情報収集を行い、周辺施設の今後の動きに合わせて今後の施設運営を検討していくことが必要となろう。文学館がパークミュージアムの入り口として、まちの賑わいの拠点となることを目指してほしい。単独での指定管理者制度や、一部業務委託を導入した直営による効率化の検討も必要である。

施設管理状況については、会議室貸出・管理、機械メンテナンス、警備、清掃、樹木刈込剪定など、11項目について業務委託を行っている。施設は建設から14年以上が経過し、階段外壁等補修、監視カメラ用HDD、展示室調光設備など、11ヶ所の修繕を実施した。照明設備のLED化、文学サロンの入り口にイベント情報を表示するためのモニターの設置、Wifiやタブレット端末の設置など、時代に合わせたデジタル機器の導入と、壊れてから修繕するのではなく、機器や設備の寿命を考慮した修繕計画が必要である。

3. 展示事業について

第4期文学館運営協議会の期間には、舘野鴻絵本原画展「ぼくの昆虫記～見つめた先にあったもの」、
「みつはしちかこ展－恋と、まんがと、青春と」、
「世界の果てで生き延びろ－芥川賞作家・八木義徳展」、大日本タイポ組合展「文
ッ字－いつもの文字もちょっと違って見えるかも」、
「白洲正子のライフスタイル－暮らしの遊び」展、
「三島由紀夫展－「肉体」と言う second language」
と、生涯学習総務課と共催で実施した「縄文土器をよむ－文字がない時代から
のメッセージ」展の、全部で7展覧会が実施された。

展覧会毎の評価については、下表のとおり。課題を検証しながら、テーマ設
定や作家の選定、若い世代を意識した取り組みや新たな視点での企画に、積極
的に取り組まれない。

2018.7.14－9.24 実施

「舘野鴻絵本原画展 ぼくの昆虫記～見つめた先にあったもの～」展

●ねらい・試み

- 緑溢れる町田の地域的特性に目を向けてもらう
- 子どもたちの好きな昆虫を扱った展示
- 展示を通して「生きること」とは何かを伝える

●お客様の感想

- 展示が工夫されていて、子どもから大人まで楽しめた
- 生きものたちは、我々が知らないところで必死に生きていることを知った
- 絵に添えられている言葉に心打たれた

●協議会の評価

- 夏の展覧会は子ども向けに行う必要がある。
- 町田の地域的な特性に注目して作家を選んだのはよかった。今後の作家選定に広がり生まれる。
- 生体展示があってもよかった。
- 猛暑の影響で屋外イベントが中止になったのは残念。



☆観覧者数
10,553人
歴代観覧者第5位

2018.10.20 - 12.24 実施

「みつはしちかこ展 -恋と、まんがと、青春と～」

●ねらい・試み

- 町田ゆかりの作家を紹介
- 漫画家を取りあげる
- 親子2代で楽しめる展示

●お客様の感想

- 母の影響で好きになった
- 長く描き続けていて凄い
- どのような想いで漫画を描いているのかを感じられた
- 青春が甦ってきた

●協議会の評価

- 期間中に展示が広がっていくことを示した展覧会だった。
- 会期の始めに展示の魅力でPRする人のイベントがあると盛り上がる。
- イベントは若い講師を招いたため集客は少なかったが、新しい種をまくことができた。
- 展覧会も講演会もインターネットでうまく発信することができた。



☆観覧者数
9,084人
(有料展観覧者第1位)

2019.1.19 - 3.17 実施

「世界の果てで生き延びろ -芥川賞作家・八木義徳-」展

●ねらい・試み

- 町田ゆかりの作家を紹介
- 没後20周年の記念年

●お客様の感想

- 作品を読んでみたい
- 山崎町に住んでいるので身近に感じられた
- 老後の生き方の参考にしたい
- 有名・無名に関わらず1人の作家の生き方を知るの面白い

●協議会の評価

- 名前を知らない作家の場合は+aの要素が必要。
- 芥川賞とタイアップしてもよかった。
- 来館したお客様には訴えたものがあった。
- 町田とのつながりは強い作家だが観覧者が少なくて残念だった。



☆観覧者数
2,915人

2019.4.20-6.30 実施

「大日本タイポ組合展 文ッ字〜いつもの文字もちょっと違ッて見えるかも〜」

●ねらい・試み

- 20代・30代の若い層を狙った
展覧会
- ことばらんどに因み文字のデ
ザインに注目
- 新規のお客様の獲得

●お客様の感想

- 文字を通して文学・美術、多角
的に楽しめた
- 充実した展示だった
- 発想と視点の豊かさに感動し
た
- 文字なのに多様なジャンルを
感じた

●協議会の評価

- ターゲットを絞り企画をして
ノウハウを蓄積することが重
要。
- 人数も年代も大成功。こうし
て殻を破ってもらいたい。
- ブランド力が向上した。
- ヴィジュアル性のある展覧会
は集客力が高い。年4回の展
覧会の中にこのような展覧会
を計画的に取り混ぜて行くと
よい。



☆観覧者数
12,790人
(歴代観覧者第2位)

2019.7.20-9.23 実施

「縄文土器をよむ -文字のない時代からのメッセージ-」

●ねらい・試み

- 生涯学習総務課と
町田市民文学館の共催
- 町田の縄文資料を紹介

●お客様の感想

- 町田が縄文の街だと認識した
- 子どもと一緒に楽しめた
- 10000年前のものとかあって
こうやってくらすんだと思っ
た
- 町田に住んでいて地元
にこのような豊かな古代があっ
たことを初めて知った

●協議会の評価

- 他部署の展示を実施すること
で、新規の観覧者を獲得でき
た。一方、夏季展はこれまで
子どもをターゲットに開催し
ており、実際に子どもが多く
来館していた。展示手法を工
夫して、より子どもたちが行
ってみたいと思えるような工
夫があるとよい。
- 縄文土器展を文学館で開催す
る意義について、企画段階で
話し合い、方向性を明確にし
ておくことよりよかったのは
ないか。



☆観覧者数
5,879人

2019.10.19 - 12.22 実施

「白洲正子のライフスタイル -暮らしの遊び-」展

●ねらい・試み

- オリンピック記念企画
- 市内外に町田を PR
- 町田ゆかり作家を紹介
- 白洲正子を通して日本文化の素晴らしさを再認識する

●お客様の感想

- 自分の生活を見直そうと思った。
- 著作が解説になっているところが文学館らしくておもしろい。
- 素敵な大人になるために時間を使おうと思った。

●協議会の評価

- 大変充実した展示だったが、なぜ今、白洲正子なのかのメッセージが必要だ。
- 自筆資料が少ない。
- 展覧会から「郊外で暮らす」というメッセージを受け取った。現代人が真似できるライフスタイルと感じた。
- 今回のようなテーマは、興味の幅が広いので文学だけでなくジェンダーやファッション、モダニズムという切り口でターゲットを拡げて広報するのもよい。



☆観覧者数
4,849人

2020.1.18 - 3.1 実施 (新型コロナウイルス感染防止により会期が3週間短縮)

「三島由紀夫展 -『肉体』という second language-」

●ねらい・試み

- オリンピック記念企画
- 1964年の東京オリンピックに因んだ作家をとりあげる
- 没後50周年の記念年
- ゆかり以外で著名な作家をはじめてとりあげる

●お客様の感想

- チラシが印象的だった
- 若い頃影響を受けた作家の自筆が見て感動した
- 充実した資料を無料で見れて大変満足した

●協議会の評価

- 「肉体」というテーマがよく伝わりとても充実した内容だった。
- チラシはコアなファンだけでなく若い人へのアピール度も高かった。
- 毎回とは言わないが著名作家を取り上げる必要がある。今回来館したお客様の足が遠のかないように続けることが重要。



☆観覧者数
4,172人

おわりに

この答申を寄稿している 2020 年 5 月末現在、新型コロナウイルス感染症対応のための緊急事態の渦中にある。町田市民文学館もすでに 2 ヶ月以上の臨時休館を余儀なくされ、展覧会をはじめ予定されていた諸事業は軒並み中止または延期となった。そしてまた今後の見通しも不透明である。

私たちは、書物をはじめとする文化的な情報を入手しにくくなるという事態に突然遭遇してしまった。講師と対面して講義を受けるといった、人と人が直接接して「教え、教えられる」時間も制約を受けている。これは文学館の事業のほとんどを不能にする危機であり、この危機のすみやかな終わりを待つばかりである。

ポスト・コロナにどのような社会が立ちあがるのか、今はまだ分からないが、「文学」そして「文化」への人々の希求が高まる可能性は大きい。そしてその時、文学館に求められる役割も変わらざるを得ないであろう。難しい対応が待っているかもしれないが、文学館内外の関係者が協力して乗り越えることを願っている。

資料編

(1) 諮問文

18 町教生図第 132 号

2018 年 7 月 24 日

町田市民文学館運営協議会
会長 様

町田市教育委員会
教育長 坂本 修一

町田市民文学館の施設運営の点検・評価について(諮問)

町田市民文学館は、2017年3月に第3期町田市民文学館運営協議会からいただいた答申を踏まえ、幅広い市民の興味や関心に応えられる事業実施に努めているところです。

しかしながら、町田市民文学館が、これまで以上に市民に必要と感じていただける魅力ある施設運営を実施していくためには、行政内部の見直しのみならず、外部の専門的かつ客観的な視点から、施設運営の点検及び評価を継続的に行っていただきながら、改善を進めていく必要があると考えています。

つきましては、町田市民文学館条例第20条及び町田市教育委員会事務局の組織等に関する規則第26条(別表第2)の規定に基づき、以下のとおり貴協議会に諮問します。

記

諮問事項 町田市民文学館の施設運営の点検・評価について

- 1 実施事業の点検・評価について
- 2 施設管理に関する点検・評価について

(2) 第4期町田市民文学館運営協議会 委員名簿

(委嘱期間 2018年 7月 24日～2020年 5月 31日)

選出区分	氏名	所属・経歴
学識経験者(研究者)	(会長) 深沢 眞二	和光大学表現学部総合文化学科教授 (2020年3月31日退職)
学識経験者(研究者)	(副会長) 渡邊 正彦	玉川大学リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科教授
学識経験者(研究者)	竹内 栄美子	明治大学文学部教授
学識経験者(研究者)	安藤 美奈	桜美林大学芸術文化学群非常勤講師
学識経験者(編集者)	多田 洋一	文芸創作誌「Witchenkare」編集長
学識経験者(編集者)	宮本 隆介	町田経済新聞編集長
学校教育関係者	吉田 孔一	町田市立南第三小学校校長
市民	武藤 充	

(敬称略)

(3) 第4期町田市民文学館運営協議会 審議経過

○第1回運営協議会 2018年7月24日(木)

- ・町田市民文学館あり方検討について

○第2回運営協議会 2018年9月13日(木)

- ・町田市民文学館のあり方見直しについて
- ・町田市生涯学習推進計画 2019-2023 について

○第3回運営協議会 2019年1月17日(木)

- ・2018年度町田市民文学館の取り組み（運営状況）について
- ・2019年度町田市民文学館事業計画について

○第4回運営協議会 2019年4月25日(木)

- ・町田市民文学館見直しに向けた取り組みについて
 1. シティプロモーションの推進

○第5回運営協議会 2019年7月25日(木)

- ・町田市民文学館見直しに向けた取り組みについて
 1. 子ども向け事業及び中高生から20歳代の若い世代を対象にした事業の充実
 2. 「文学」の概念の拡大、「柔軟で質(クオリティ)の高い文学館」を目指した事業展開
- ・2020年度展覧会開催予定について

○第6回運営協議会 2019年11月7日(木)

- ・町田市民文学館見直しに向けた取り組みについて
 1. 市民協働における事業の取り組み、情報発信の検討
 2. 市民の自己実現を支える事業の展開
- ・答申書（案）について

○第7回運営協議会 2020年2月27日(木)

- ・町田市民文学館見直しに向けた取り組みについて
 1. 町田市民文学館の現状、実施事業の点検・評価、施設管理に向けた点検・評価について
 2. 町田市民文学館あり方見直し方針について
- ・答申書（案）について

